

群 教 セ	G02 - 03
	平21.241集

中学校社会科歴史的分野における 思考力を高める指導の工夫

— 「考えつよシート」(思考支援ワークシート)を活用した授業を通して —

長期研修員 中島 剛

《研究の概要》

本研究は、中学校社会科の歴史的分野において、思考力を高めることをねらいとしたものである。具体的には、考える道筋を示した「考えつよシート」(思考支援ワークシート)を活用し、歴史的事象に対する考え方が身に付けられるようにすることと、歴史的事象を多面的・多角的にとらえられるようにすることの2点について、記述項目や内容を量と質の面から分析・評価し、思考力の高まりを検証するものである。

キーワード 【社会一中 歴史的分野 思考力 ワークシート 多面的・多角的】

I 主題設定の理由

近年のPISA調査や全国学力調査における結果から、日本の子どもたちの思考力の低下が教育の今日的課題となっている。平成10年の学習指導要領の改訂で、自ら学び自ら考える「生きる力」の育成が強調されるようになり、今回の平成20年の学習指導要領の改訂においても、「習得」「活用」「探究」の三つの学習活動を通して、「確かな学力」を基盤とした「生きる力」の育成がますます重要視されている。社会科もその流れの中で、思考力の向上が強調されるようになっている。

群馬県でも、『平成21年度学校教育の指針』の中で、「基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得」、「思考力、判断力、表現力の育成」が社会科の指導の重点として挙げられ、本県社会科の課題であることが明記されている。

協力校においても自分の考えをまとめていく方法を身に付けさせたり、思考力を高める指導法を考えていく必要性を強く感じている。それは、社会科の授業で、生徒は一問一答式の問題には比較的良く取り組む一方で、グラフや図、写真などの資料を読解して自分の考えを表現するような課題では、極端に取組が鈍くなる傾向が見られるからである。

これらのことから、中学校社会科歴史的分野の授業の中で、思考力を高める指導法について工夫してみたいと考えた。思考力を高めるといっても、授業の中で生徒に考えるよう指示したところで、すぐに考えられるようになるものではない。生徒にその「考え方」を身に付けさせて、思考経験を

重ねることで、初めて思考力を高めることができるものとする。また、知識量に個人差があるため、知識を歴史の流れの中でうまく整理できず、比較・関連させて考えることができない生徒も多い。このことから、資料を読み取らせて知識を補い、その知識を比較・関連させながら結合していく過程を工夫すれば、生徒個々の知識量の差に左右されず、思考力が高められると考えた。

以上のことからワークシートを活用して、考える道筋を示すとともに、生徒が資料を読み取り、比較・関連・判断・結合させて考えられるような支援を工夫していく。さらに、歴史的事象に対する考え方を身に付け、歴史的事象を多面的・多角的にとらえることができるように、思考経験を積み重ねていく授業を展開していく。これらを行うことで、最終的に生徒の思考力を高めることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

中学校社会科歴史的分野における学習の過程に「考えつよシート」(思考支援ワークシート)を取り入れることが、生徒の思考力を高めるのに有効であることを授業実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

1 「考えつよシート」(思考支援ワークシート)において歴史的事象に対して比較・関連・判断・統合したことを表現させることにより、考え方が身に付く課題を与え、既習知識と資料から読み取ったこ

とを活用して、考える道筋を示した「考えつよシート」（思考支援ワークシート）により比較・関連させ、判断・統合したことを表現させる活動を繰り返し行うことで考え方が身に付き、思考力が高まるであろう。

2 「考えつよシート」(思考支援シート)の段階的な活用により、歴史的事象を多面的・多角的にとらえられるようになる

「考えつよシート」（思考支援ワークシート）において評価・判断させる項目を段階的に増やして、その項目を生徒が自分で考えるようにすることで歴史的事象を多面的・多角的にとらえられるようになり、思考力が高まるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え

(1) 思考力を高めるとは

思考力とは、『日本大百科全書』（小学館）によれば、「さまざまな概念を結合して判断し、さらに判断を結合して推理する力」である。この解釈から、本研究では歴史的事象に関する知識を関連させたり、比較・判断して出た答えを結合して推理し、時代や歴史的事象をとらえる力を思考力とする。この思考のパターンを繰り返す（思考経験を重ねる）ことによって、思考方法を習得し、多面的・多角的にとらえかたができるようになることを思考力を高めると考える。

(2) 「考えつよシート」とは

このワークシートは、「考えを、つなげ、よみとれる、シート（用紙）」であることから、語呂が良くなるように縮めて、「考えつよシート」と名付けた。以後、本文中では「考えつよシート」（思考支援ワークシート）は「考えつよシート」と表記する。この「考えつよシート」は考え方を身に付けさせるために、考える道筋を示したワークシートである。

思考方法は、小さい頃から思考を積み重ねて身に付くものである。そのため、思考力には個人差があり、一斉授業の中で課題を与え、考えさせる場面では、その答えの出し方は多種多様になることが多い。また、考え方そのものが分からない生徒も少なくない。そこで、思考方法のある程度パターン化し、考える道筋を示してやることで、自分の考えを整理し、まとめやすくした。

さらに、生徒が歴史的事象をいろいろな場面や角度からとらえる力を伸ばすためには、繰り返し評価・判断していく活動を行うことが必要となる。そこで、評価・判断させる項目を「考えつよシート」の中に作り、最初は教師が示し、その後段階的に生徒が自分で考える項目を増やす。その際、項目を生徒一人一人に考えさせることで、各自の多面的・多角的な考えを見取りやすくした。

これらの二点から思考力を高められるようにするワークシートが「考えつよシート」である。

(3) 歴史的事象を多面的・多角的にとらえるとは

「中学校学習指導要領解説」（社会編）の中の「社会科の目標及び内容」に記されている多面的・多角的についての解釈は、「多面的・多角的の『多面的』とは学習対象としている社会的事象が様々な面をもっていること、『多角的』とはそうした社会的事象を様々な角度から考察し理解することを意味している」とある。生徒は歴史的事象を多面的・多角的にとらえる力が不十分であることから、多面的・多角的にとらえる学習を意識的に取り入れる必要があると考えた。歴史的事象から様々な面を見だし、または様々な立場で考える方法を身に付け、今までと異なるとらえ方ができるようになることを、歴史的事象を多面的・多角的にとらえると解釈する。

3 研究構想図

図1は研究構想図である。

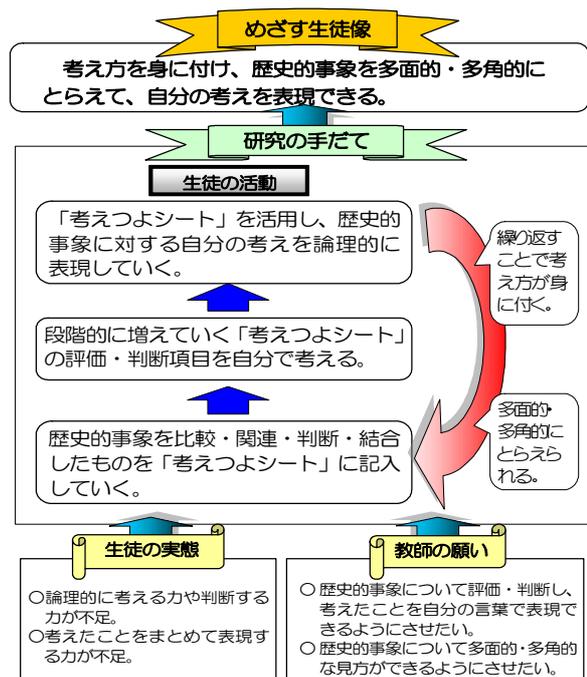


図1 研究構想図

4 検証計画

研究の見通しに基づき、協力校の第1学年の2クラス（1クラス39名、男18名女21名）で授業実践を行い検証する。検証に当たっては2クラスの生徒が記入した「考えつよシート」の結果から、集団としての変容を分析する。また、個別には3名の生徒を抽出し、その変容を分析する。

(1) 授業実践計画

教科	社会科(歴史的分野)
対象	第1学年 78名 (2クラス)
単元	武士の台頭と鎌倉幕府 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 【中学校学習指導要領歴史的分野 (3)アイ】
期間	平成21年10月19日～11月11日 7時間×2クラス

(2) 検証の観点と方法

	検証の観点	観点の説明	検証の方法
見通し1	「考えつよシート」において歴史的事象に対して比較・関連・判断・統合したことを表現させることにより、考え方が身に付いたか。	課題を与え、既習知識と資料から読み取れることを活用して、考える道筋を示した「考えつよシート」により、比較・関連させ、判断・統合したことを表現させる活動を繰り返すことは、考え方が身に付き、思考力を高めることに有効であったか。	「考えつよシート」の活用法について説明する前の課題に対する記述内容と（「考えつよシート①」）、最後の授業での記述内容（「考えつよシート⑦」）を比較して、その変容を見取るための評価基準を定める。そして、数値化することにより変容を客観的に評価できるようにし、そこから評価の分布がどのように変わったのか量的な変化をとらえる。また、記述内容の質的変容も見取る。
見通し2	「考えつよシート」の段階的な活用により、歴史的事象を多面的・多角的にとらえられるようになったか。	「考えつよシート」において評価・判断させる項目を段階的に増やして、その項目を生徒が自分で考えるようにすることは、歴史的事象を多面的・多角的にとらえられるようになり、思考力を高めることに有効であったか。	生徒が自分で考える評価・判断項目の数の増減を量的な面から見取る。また、自分で考えた項目を最初に書いた「考えつよシート④」と最後に書いた「考えつよシート⑦」とでは、歴史的事象を多面的・多角的にとらえる力がどのように変容したか、評価基準を定め記述内容を質的な面からも見取る。

(3) 抽出生徒

検証においては、クラス全体の記述内容の変容とともに、「考えつよシート」がどのような実態の生徒の思考力を高めるのに有効なのかを検証す

るために、実態の異なる抽出生徒を3名決め、その生徒らの変容を主に「考えつよシート」の記述内容の変化から見取る。生徒の抽出規準および、期待する生徒の姿は以下(表1)のとおりである。

表1 生徒の抽出規準（期待する生徒の姿）

生徒A	生徒B	生徒C
歴史的分野への興味・関心は高く、知識も豊富である。また、自分の考えを適切に表現することができる。 (歴史的事象を多面的・多角的にとらえ、適切に評価・判断してより論理的な文章表現ができるようになることを期待したい)	歴史的分野への興味・関心は普通で、基本的な歴史の知識もあるが、自分の考えを表現することは得意でない。 (歴史的事象を多面的・多角的にとらえ、自分なりの考えを表現することができるようになることを期待したい)	歴史的分野への興味・関心はあまり高くない。基本的な歴史的事象についての知識も十分ではなく、自分の考えを表現することも得意でない。 (歴史的事象を少しでも多面的・多角的にとらえることができるようになり、短い文章でも自分の考えを表現できるようになることを期待したい)

V 研究授業実践

1 指導計画

考える道筋を示した「考えつよシート」の活用を通して、課題に対する考え方を身に付け、生

徒が自分で考える評価・判断項目を段階的に増やしていくことで、歴史的事象を多面的・多角的にとらえられるようにし、生徒の思考力を高められるようにする。

実践した検証授業の指導計画（表2）を示す。

表2 指導計画

過程	時間	学習活動	支援及び留意点	評価項目（評価方法）
つかむ	1	○武士の始まりについて知る。 ○課題①「 あなたがこの時代に生きていたら武士と貴族のどちらを選びますか 」について考える。 ○「考えつよシート」の活用法について知る。	・武士の始まりを理解できるように、時代の流れを簡潔に説明する。 ・自分の考えを導き出すために、資料を参照するよう助言する。 ・次時から扱う「考えつよシート」の活用法を説明する。	◆「おおむね満足できる」、◇「十分満足できる」状況 【思考・判断】（ワークシート） ◆課題について資料を基に考えようとしている。 ◇課題について資料を基に多面的・多角的に考えようとしている。 【資料活用の技能・表現】（ワークシート） ◆貴族・武士の生活の特徴を資料から読み取ることができ、ワークシートに自分の考えを表現している。 ◇貴族・武士の生活の特徴を資料から適切に読み取ることができ、論理的に自分の考えをワークシートに表現している。
追求する	5	○武士政権の確立から鎌倉幕府の滅亡までを知り、資料を活用し課題に対する自分の考えをまとめる。 【各時間の課題】 ②「 平氏が滅ぼされないようにするためにあなたなら平清盛にどんなアドバイスをしますか 」 ③「 あなたなら鎌倉と京都のどちらに幕府を開きますか 」 ④「 鎌倉時代に生きていたら武士と農民のどちらがいいですか 」 ⑤「 鎌倉仏教の宗派の中で、あなたの考えに最も合うものを1つ選びなさい 」 ⑥「 あなたが日本の武士なら元の軍勢に対してどう戦いますか 」 ○代表者の数名が自分の考えを実物投影機により発表する。	・各時間とも単元ごとにつかませたい内容について簡潔に説明する。 ・各時間とも課題について資料を提示し、「考えつよシート」を活用して、自分の考えを整理してまとめるよう助言する。 ・「考えつよシート」で生徒が自分で評価・判断していく項目を増やすことができるように歴史的事象についての見方、考え方を適宜助言する。 ・他の生徒のシートを実物投影機で示すことで、他の生徒の記述を参考にし、多面的・多角的な見方、考え方ができるよう支援する。	【関心・意欲・態度】（観察・記録） ◆武家政権の成立と、その後の政治・社会・文化の動きに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 ◇武家政権が成立したことと、その後の政治、社会、文化の動きに関心を持ち、意欲的に自分なりの考えを追求しようとしている。 【思考・判断】（ワークシート） ◆鎌倉幕府の成立とその後の政治・社会・文化の特色や社会的な変動を資料を基に考えている。 ◇鎌倉幕府の成立とその後の政治・社会・文化の特色や社会的な変動を資料を基に、多面的・多角的に考えている。 【資料活用の技能・表現】（ワークシート） ◆武家政権が成立したこととその後の政治・社会・文化の特色や変遷について、それに関する資料を選択・活用し、自分の考えを表現している。 ◇武家政権が成立したこととその後の政治・社会・文化の特色や変遷について、それに関する資料を適切に選択・活用し、自分の考えを論理的に表現している。 【知識・理解】（ワークシート） ◆武家政権が成立したこととその後の政治・社会・文化の特色や変遷を理解し、東アジア世界とのかかわりに気付いている。 ◇武家政権が成立したこととその後の政治・社会・文化の特色や変遷を東アジア世界と関連させながら理解し、その知識を身に付けている。
まとめる	1	○鎌倉幕府の滅亡について知る。 ○課題⑦「 鎌倉幕府が滅ぼされないために、あなたなら幕府にどんなアドバイスをしますか 」について考える。	・鎌倉幕府の滅亡の様子を理解できるように、当時の流れを簡潔に説明する。 ・これまで活用してきた「考えつよシート」の手法を活用して自分の考えをまとめることができるように、助言する。	【思考・判断】（ワークシート） ◆鎌倉幕府の滅亡の様子を社会的な変動の資料を基に、考えている。 ◇鎌倉幕府の滅亡の様子を社会的な変動の資料を基に、多面的・多角的に考えている。 【資料活用の技能・表現】（ワークシート） ◆鎌倉幕府の滅亡の様子を、関係する資料を選択・活用し、自分なりの考えを表現している。 ◇鎌倉幕府の滅亡の様子について、関係する資料を適切に選択・活用し、自分の考えを論理的に表現している。

2 授業実践の展開

指導計画に示したように、基本的な学習内容を学ばせる授業を展開した後に、「考えつよシート」を活用し、資料の読み取りを通して課題について考えさせた。教師が課題を与え（次頁図2、I）、

生徒が資料から読み取ったことと、身に付けている知識を書き出し（次頁図2、II）、それらの内容を比較・判断させ（次頁図2、III）、最後に書き方のポイントを提示する支援を行い（次頁図2、IV）、自分の考えをまとめて表現する活動を行う

(図2, V)。この活動を繰り返し6回行った。
(シートは7回活用したが、最初はこの形を示していないため) また、歴史的事象を多面的・多角的にとらえることができるよう、「考えつよシート④」から生徒が思考・判断する項目を設定し(図2, VI)、段階的にその数を増やしていき、最後の「考えつよシート⑦」では項目を生徒にすべて

考えさせ、授業を展開した。また各授業の最後に、自分の考えをしっかりとまとめ、さらに多面的・多角的な見方ができた生徒の「考えつよシート」を実物投影機で映した。これは、多面的・多角的な見方がクラスのすべての生徒に浸透することをねらいとして行った支援である。

図2 「考えつよシート④」(生徒が記述したもの)

VI 結果と考察

5段階評価で対象となる生徒の記述を評価した。

1 「考えつよシート」において歴史的事象に対して比較・関連・判断・統合したことを表現させることにより、考え方が身に付いたか

(1) 全体の記述内容から

表3は、最初の授業で行った「考えつよシート①」における、生徒が考えた記述内容と、最後の授業で行った「考えつよシート⑦」において生徒が課題に対して比較・関連・判断・結合した記述内容(図2のV)の変化の様子を評価ごとに割合で表したものである。記述内容の変化を客観的に見るため、次頁表4のように評価基準を設定し、

表3 記述内容の変化の様子

評価	「考えつよシート①」	「考えつよシート⑦」
5	5%	19%△
4	18%	34%△
3	40%	26%▼
2	18%	15%▼
1	19%	6%▼

△増加が見られた場合 ▼減少が見られた場合

表3から「5」、「4」の高い評価を受けた生徒の割合はそれぞれ14ポイント、16ポイントと増加しており、逆に「3」、「2」、「1」の評価の

生徒の割合はそれぞれ－14ポイント、－3ポイント、－13ポイントの減少が認められた。

この結果から、継続的な「考えつよシート」の

活用により、どの段階の生徒においても記述内容の向上が見られることが分かった。

表4 生徒の記述に対する評価基準と評価ごとの生徒の記述例

評価	内容	生徒の記述例 (「考えつよシート⑦」から引用)
5	結論を明確に示し、その論拠となる理由を複数挙げ、結論を論理的にまとめあげている場合。	私は幕府の政治のやり方を変えた方が良いとアドバイスします。なぜなら、北条氏の宗家だけが力を握るのはずるいからです。それに、北条氏が独断で政治を行うのも不満の原因になるからです。もし、独断で政治を行わずに、会議をして出した結論なら、みんな納得し、幕府にはむかう人はなくなると思います。だから私は政治のやり方を変えた方が良いとアドバイスします。
4	その論拠となる理由を複数挙げ、結論をまとめあげている場合。	鎌倉幕府は御家人達に色々な不満を与えて、さらに御恩と奉公の関係で信頼を無くしてしまったかもしれない。御家人達のことも考えて、話し合ってから幕府は指示を出した方がいいと思った。
3	その論拠となる理由を挙げ、結論をまとめた場合。	御家人に信頼されなくては、幕府が滅びる。だから、何かあげればよかったのでは。
2	結論のみが書けている場合。	味方の御家人に、信頼された方がよかったと思う。
1	何も書けなかった場合。	記述無し。

次に、「考えつよシート①」の各評価の生徒数（最初の人数）のうち、「考えつよシート⑦」の各評価の段階で評価が上がった生徒数とその割合を表した。（表5）

表5 評価が上がった生徒の割合

最初的评价	1	2	3	4
上がった生徒の割合	83%	36%	45%	50%
上がった人数／最初の人数	10/12	5/14	13/29	7/14

表5では「2」、「3」、「4」の各評価の評価が上がった生徒の割合は36%、45%、50%とほぼ同じ程度であるが、「1」であった生徒の評価が上がった割合は83%と大変高い割合を示した。自分の考えを記述することが苦手な生徒に「考えつよシート」を活用して歴史的事象を比較・関連・判断・結合させる活動を行わせ、継続して「考えつよシート」活用することで、それまで身に付いていなかった考え方が身に付くようになり、その結果として特に大きな効果が見られたものと考えられる。

また、「考えつよシート①」の生徒のまとめの記述には、箇条書きが多く見られ、文章として論理的に記述することができていない生徒が目立っていた。しかし、「考えつよシート⑦」では継続

的な「考えつよシート」の活用によって、大半の生徒が考えを比較・関連・判断・結合させ、まとめの欄に自分の考えを記入することができるようになっていた。

これらの結果から、「考えつよシート」を繰り返し活用することによって、それぞれの評価段階の大半の生徒が課題に対する考え方が身に付き、自分の考えが表現できるようになったことが明らかになった。特に、自分の考えを記述することが苦手な生徒には著しい変容が見られ、効果があることが分かった。

(2) 抽出生徒の記述内容から

生徒A、B、Cの具体的記述内容の変容についての検証結果は次のようであった。〔最初の課題「あなたがこの時代に生きていたら、武士と貴族のどちらを選びますか」（考えつよシート①）と最後の課題「鎌倉幕府が滅ぼされないために、あなたなら幕府にどんなアドバイスをしますか」（考えつよシート⑦）について、生徒が書いたまとめを比較したものを次頁表6に提示〕

最初の課題に対するまとめは、資料から読み取った内容について、考えたことを思いつままに用紙に書き表したものである。したがって全般的に書く内容も少なく、考えを比較・関連・判断・結合させるまではいかに箇条書きで記述している生徒も多かった。

次頁表6の生徒Aのまとめを見ると、「考えつよシート①」では、提示された資料を活用し、それなりにまとめてはいる。しかし、頭の中で思いついた内容を箇条書きで表しているように見られる。ところが、「考えつよシート⑦」では、資料から読み取った内容をそれぞれ結合させて、論理的な形で表すことができるようになってきている。「考えつよシート②」以降に、考えたことをどのように書き表せばよいか、そのまとめ方を「書き方の

ポイント」として載せ（図2，IV）、それに沿って自分の考えを記入できるように「考えつよシート⑥」まで繰り返し行ってきた（「考えつよシート⑦」では支援をしていない）。その結果、最初に自分の結論を書き、その後結論の論拠となる説明を書いていくという方法が身に付き、論理的な分かりやすい内容の文章に書き表していくことができたものと思われる。

表6 抽出生徒のまとめの記述の比較

	抽出生徒の「考えつよシート①」のまとめ	抽出生徒の「考えつよシート⑦」のまとめ
生徒A	<p>【武士を選択】</p> <p>貴族は毎日、何枚も着物を着なくてはいけなくて、身動きがとりにくそうだったので、武士の方が普通の生活は楽しそうだったから。それに、貴族だと、一日にすることがきめこまかに決めてあってきゅうくつそうだし、貴族の仕事は政治関係で難しそうだし、田、畑の仕事や武芸のけいこはしてみたいからです。</p> <p>箇条書きのような書き方が見られる。</p>	<p>私はもっと民衆、御家人の意見をもっと聞いてあればよかったのじゃないかと思いました。まるで前の平氏のように独断で政治をやり始めたのが一番ダメだと思いました。次に、せっかく頼朝が築いた御恩と奉公の関係を崩してしまったのは、御家人にとって大きな不満だったと思います。御家人のために「永仁の徳政令」を出して考えてはいるのだろうけれど、もう少し御家人の立場になって考えれば良かったと思いました。そして、まわりへのふるまいも遊んでいるところを見られないようにもっと真剣に政治にとりくめば滅びなかったのではないかと思います。</p> <p>最初に結論を書き、その後その論拠となる説明を比較・関連・評価・評価・結合させて論理的に表現している。</p>
生徒B	<p>生徒Bは最初の授業では、課題については生懸命考えている様子は見られたが、なかなか書き出すことができなかった。結局考えを書き表すことができなかった。</p> <p>比較・関連・評価・結合した自分の考えをまとめて表現することができている。</p>	<p>恩賞を与えられるように考えて与える。きちんと政治をすること。不満が高まらないように工夫して政治を行うと良いと思う。最初から信頼関係をつくり、平等に恩賞を与えていれば、倒幕されることも反発されることもなかったのでは…?? 御家人が周りのことを考えて豊かになるようにもっと努力をすれば良かったかも知れない!?</p> <p>自分の考えを比較・関連・評価・評価・結合させて表現することができている。</p>
生徒C	<p>【武士を選択】</p> <p>○武士の方が、自由時間が多い。 ○貴族は、ごはんはごうかだがきそくが多い。 ○きそくにしばられるより、力仕事の方がいい。</p> <p>箇条書きで書いている。</p>	<p>いろいろな対策をやってみたものの、最終的には庶民はなにも得をしていない。得をしているのは御家人。なぜ恩賞をなかなかあげなかったのか、普通にあげる物があるのならあげれば良いと思う。最終的には御家人たちが得をしている。みんなを平等にして、御家人や庶民にうらまれないようにすれば良かったと思う。</p> <p>自分の考えを比較・関連・評価・評価・結合させて表現することができている。</p>

表6の生徒Bのまとめを見ると、事前のアンケートの中で、自分の考えを表現することは得意ではないという感想を書いていた。そのため、最初の授業では自分の考えをどう表現してよいか迷っていた様子が見られ、授業時間内で書き表すことができなかった。しかし、回数を重ねるごとに記述量が増えてきて、最後の授業では箇条書きのような部分はあるが、「考えつよシート」に比較・

関連・評価・結合した自分の考えをまとめて表すことができていた。

また、表6の生徒Cのまとめを見ると、最初は資料から読み取れる内容を箇条書きで表していたが、繰り返し行うことで最後にはしっかりと自分の考えを比較・関連・評価・結合させて表現することができていた。繰り返し行っているうちに、自分の考えを書き表す方法がつかめたようで、集

中して自分の考えを「考えつよシート」にまとめる作業に取り組んでいる姿が見られた。

以上のことから、「考えつよシート」を活用することによって実態の異なる生徒も、それぞれ考え方を身に付けられ、自分の考えを表現することができるようになった。このことから、「考えつよシート」を活用することは、思考力を高めることに有効であると考えられる。

2 「考えつよシート」の段階的な活用により、歴史的事象を多面的・多角的にとらえられるようになったか

(1) 全体の結果から

生徒が考えた評価・判断に必要な項目数が全体ではどのように変化したかを「考えつよシート」④と⑦において生徒が考えた項目数を比較し、その項目数の変化を表したのが下の表7である。

表7 生徒が考えた評価・判断に必要な項目の量的変化(個)

考えつよシート④	考えつよシート⑦
0.37	1.19

この学習に慣れてきたところで、「考えつよシート④」から、生徒が自分で考えた項目を書き込む欄を作り、記入できるようにした。生徒は最初から与えられた項目の内容に沿って記入していくことはできていたが、自分で考えた項目を作ることができない者が多かった。しかし、回数を重ねるごとに少しずつ自分で考えた項目を記入できる生徒が増えてきた。最終的には自分で考えた項目数が増え、表7のように、その項目数は最初に比べ、約3倍に増えた。また、この項目の質的变化について表したものが表8である。

表8 評価・判断に必要な項目の質的变化

評価	考えつよシート④	考えつよシート⑦
A	18%	48%△
B	23%	31%△
C	59%	21%▼

△増加が見られた場合 ▼減少が見られた場合

項目の評価基準を「A」、「B」、「C」の3段階に設定し(表9)、その評価に沿って「考えつよシート」④と⑦を比べ、生徒が評価・判断した項目が質的にどう変化したか表したものである。

表9 項目の質的变化における評価基準

評価	生徒の書いた項目及び規準
A	「政治面」「経済面」など→(その後続く内容に多面的・多角的な記述が見られる場合)
B	「悪党」「徳政令」など→(その後続く内容に事実のみの記述しか見られない場合)
C	記述無し

これを見ると、評価「C」のほとんど書けなかった生徒の割合が59%から21%に半分以上減り、「B」の評価の生徒はわずかながら増えている。さらに「A」の割合が18%から48%と2.5倍以上増えた。これらは、授業のまとめの部分で見本となる生徒の「考えつよシート」を実物投影機で示したことで、他の生徒に多面的・多角的な見方のイメージをつかませやすくなったことや、「考えつよシート」を段階的に活用してきたことで、歴史的事象に対して幅広く見ようとする意識が少しずつ強まっていったことが考えられる。

これらのことから、「考えつよシート」を段階的に活用し、考えるための評価・判断項目を自分で考えさせるようにしていくと、大半の生徒が歴史的事象を多面的・多角的にとらえられるようになると考えることができる。

(2) 抽出生徒の記述内容から

「考えつよシート」④と⑦において生徒が評価・判断する項目がどのように変化したかを示したのが、次頁の図3～図5である。[「考えつよシート④」の課題「鎌倉時代に生きるとしたら武士と農民のどちらがいいですか」と、「考えつよシート⑦」の課題「鎌倉幕府が滅ぼされないために、あなたなら幕府にどんなアドバイスをしますか」に対して生徒が考えた項目の記述内容の比較]

次頁図3-1, 2の生徒Aの内容を比較してみると、「考えつよシート④」では、「1日」という項目を定め、「武士」「農民」という複数の角度からとらえることはできている。「考えつよシート⑦」では、「幕府のふるまい」という項目→「犬合わせの日(犬同士を戦わせる)」→「不吉、なげかわしいと思われる」など事実に加えて、自分の考えまでも記入している面や、「幕府の政治」という項目→「報酬がなくなる」→「御恩と奉公の関係がくずれ、民衆の反感を買う」という部分では、事実に加えその後どのような状況になった

かを説明することができている。このように、生徒Aの評価・判断する力が向上している様子が読み取れる。また、「考えつよシート⑦」で、「政治面」及び「経済面」からとらえていることと、

「幕府」から見た視点と「民衆」から見た視点をそれぞれ記入していることなどから、歴史的事象に対して多面的・多角的にとらえる力が伸びていることを読み取ることができる。

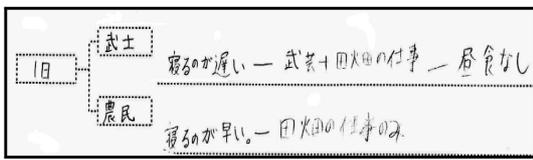


図3-1 生徒Aの④の項目

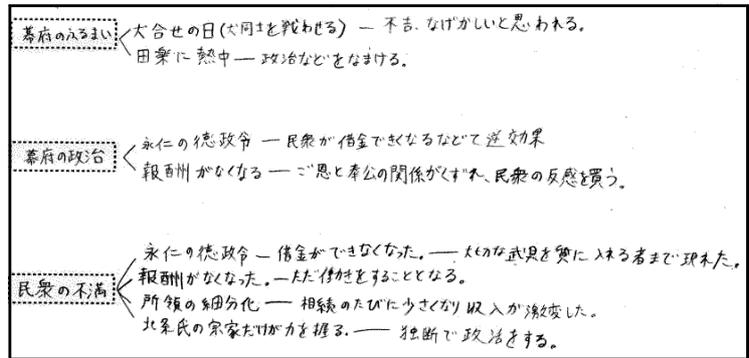


図3-2 生徒Aの⑦の項目

図4-1, 2において生徒Bは、「考えつよシート④」では新しい項目を考え出し、記入することができなかつた。しかし、「考えつよシート⑦」では、「政治」、「人物」といった項目を自分で考え出し、その中で政治面、経済面といった多面的に、また「幕府」、「御家人」、「北条氏」、「後醍

醐天皇」といった多角的な視点でとらえることができている。また、これらの鎌倉末期のできごとによって、「徳政令を出したが効果はなかつた」「その後倒幕に成功!!」など歴史的事象による結果までを評価・判断してとらえられている様子を読み取ることができる。

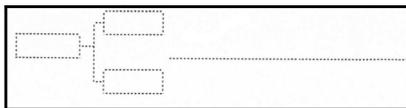


図4-1 生徒Bの④の項目

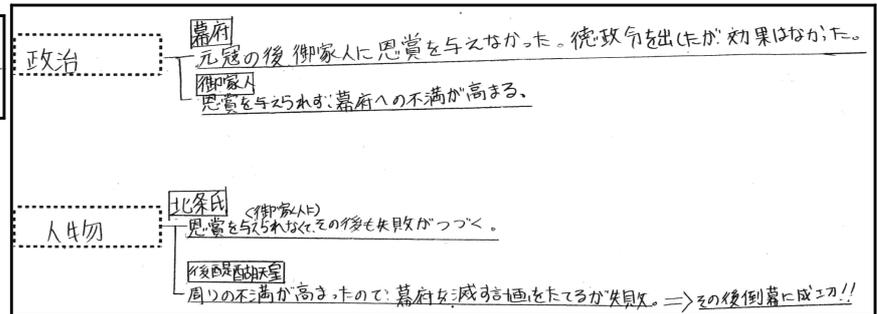


図4-2 生徒Bの⑦の項目

図5-1, 2において生徒Cは、「考えつよシート④」では、「日常」と自分で考えた項目を設定し「武士」「農民」という複数の角度からとらえることはできている。「考えつよシート⑦」では「永仁の徳政令」「恩賞」という項目を定め、「永仁の徳政令」では経済面からとらえ、その内容、結果について記入している。「恩賞」では「竹崎季長」の立場と、恩賞をもらえなかつた「御家

人」の立場の二つの角度からとらえ、季長から見れば「ラッキー」であるが、恩賞をもらえなかつた御家人の立場からすると「不公平」とであると記入しており、多角的に評価・判断することができるようになっていた。これらの内容から、多角的・多面的にとらえる力が伸びていることを読み取ることができる。

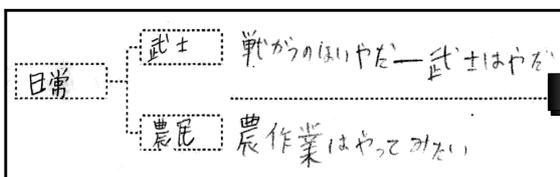


図5-1 生徒Cの④の項目

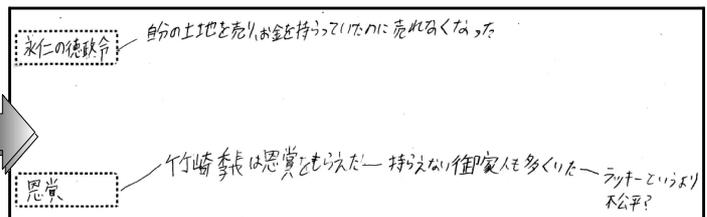


図5-2 生徒Cの⑦の項目

全体の結果と抽出生徒の記述内容から、「考えつよシート」の段階的な活用において、生徒が考えるための評価・判断項目を増やしていくことで、実態の異なる生徒でも自分で考えた項目を増やして記入することができるようになり、歴史的事象を多面的・多角的にとらえる力を伸ばすこともできるようになることが明らかになった。

以上のことから、「考えつよシート」を活用することは思考力を高めることに有効であると考えられる。

Ⅶ 研究のまとめ

本研究では、「考えつよシート」を活用することで、歴史的事象に対する思考力を高め、短い学習期間でも効果を上げられることが検証された。

次に、実践の前と後を比較することで明確になった成果と課題についてまとめる。

1 成果

(1) 「考えつよシート」において歴史的事象に対して比較・関連・判断・統合したことを表現させることにより、考え方が身に付いた

課題を与え、既習知識と資料から読み取れることを活用して、考える道筋を示した「考えつよシート」により比較・関連、判断・統合したことを表現する活動を繰り返し行ったことで、実態の異なる生徒でも考え方が身に付き、それぞれの生徒の思考力を高めることができた。特に、自分の考えを記述することが苦手な生徒に対しては大きな効果があることが分かった。

(2) 「考えつよシート」の段階的な活用により、歴史的事象を多面的・多角的にとらえられるようになった

課題を考えるために評価・判断させる項目を段階的に増やして、その項目を生徒が自分で考えることで、実態の異なる生徒でも、大半の者が多面的・多角的にとらえられるようになり、思考力を高めることができるということが分かった。

2 課題

○ 評価・判断させる項目を考えさせる際には、生徒に抽象化の力が必要となる。そのため、中学1年生には容易ではなく、作業が進まない様子も見られた。検証授業の時間も限られていたことから、一つの段階に十分時間をかけられな

かったことも原因と思われる。そこで、2時間で1回や単元で1回など「考えつよシート」を活用する回数を減らして、時間に余裕をもたせてもよいのではないかと感じられた。一年間継続的に生徒の実態に合わせて、習熟度を確かめながら授業を続ければ、評価・判断させる項目はもっと書けるようになり、思考力は高まっていくものと考えられる。今後はこの点の検証をさらに進めていきたい。

○ 「考えつよシート」を活用した授業を進める際に、一年間のどの部分で「考えつよシート」を活用するのかが示した年間指導計画があれば、より汎用性を高めることができる。また、生徒の記入した「考えつよシート」を評価する際に、評価規準・基準を併せて作成しておくことで、文章記述の評価に対する教師の負担が軽くなり、より多くの方に活用してもらえると考える。そのため、今後は年間指導計画および評価規準・基準の作成も進めていきたい。

○ 本研究は、歴史的分野での実践だったが、この「考えつよシート」は、地理的分野や公民的分野、もしくは他教科においても十分活用できるものと考えられる。そのため、それぞれの社会科分野での実践、または他教科の教員の協力も含めて「考えつよシート」の有効性を確認するための検証を進めていきたい。

〈おもな参考文献〉

- ・ 群馬県教育研究所連盟 編著 『実践的研究のすすめ方』 東洋館出版社 (2003)
- ・ 小学館 編著 『日本大百科全書』 小学館
- ・ 文部科学省 編著 『中学校学習指導要領解説』 社会編 (2008)
- ・ 群馬県教育委員会 編著 『平成21年度 学校教育の指針』 (2009)